

安全運転管理

ふくおか

Safety Driving & Traffic Education.

秋季号

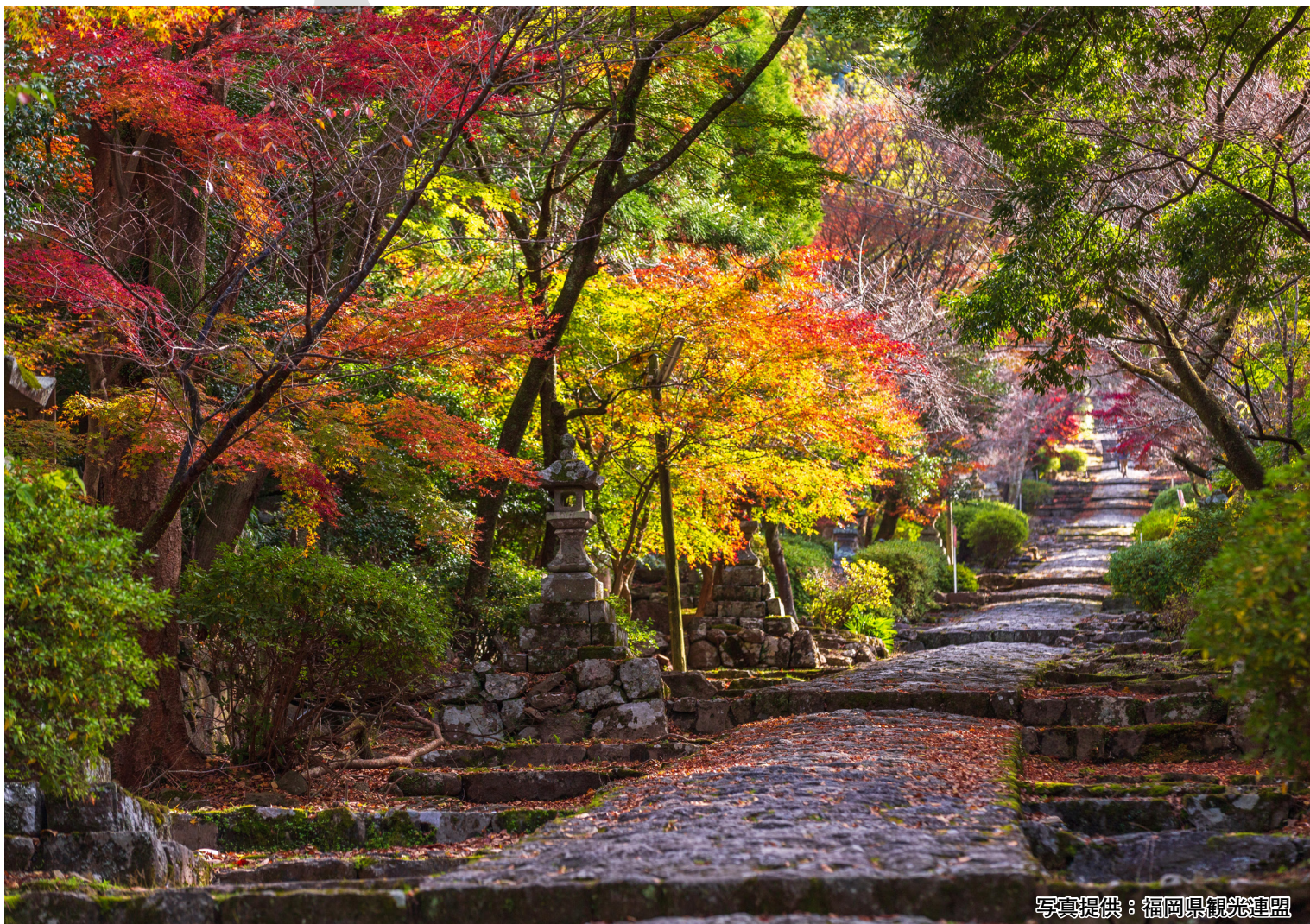
秋季号の内容

【安全運転管理実務】

危険予測訓練とドライブレコーダー等の活用

【主な連載】

- ・ 安管事業所訪問
- ・ 安全運転フォトフラッシュ
- ・ 事故はこうして発生した



写真提供：福岡県観光連盟

発行 福岡県安全運転管理協議会
(一財)福岡県交通安全協会

基本に忠実に、安全対策を積み重ね 交通事故を防止する



左から経営管理部 松山 純也 部長、安全品質管理部 福崎 学 部長

●事業所概要

設立：昭和38年9月2日

所在地：福岡市中央区鳥飼二丁目6番51号

当社は、情報通信設備・総合通信設備・電気設備の3つの事業を通して社会インフラを提供しています。従業員数は118名で、派遣社員を含めると181名が在籍しています。社有車は高所作業車や建柱車、トラック、普通自動車など45台を使用しています。

車両管理規程を遵守し 安全に運用する

当社は、社有車の使用について車両管理規程で定めており、誰でも運転できるわけではありません。新入社員は、入社して6か月後に先輩が同乗して路上講習を行います。こうした同乗指導を経て、上長の許可が下りるまで最終的に1年程度の期間が必要となります。こうした許可制を取り入れた理由は、当社の安全運転基準をクリアした安全

運転レベルが高い従業員しか運転できないようにすることで事故防止を図るためです。

また、マイカー通勤や自転車通勤の場合も許可制としており、管理者は申請時に免許証に記載の運転可能な車種や条件などを確認し、基準を満たしているか判断しています。

「安全」の確認と意識の高揚

点呼では、アルコール検知器による酒気帯びの有無の検査、体調や免許証所持の確認を行います。自宅から現場に直行する者は、車両に備えているアルコール検知器を使用し、動画で検知結果を上司へ報告させます。

当社は、福岡県の「飲酒運転撲滅宣言企業」として登録されており、飲酒運転については服務規程で懲戒と定め、

事業所の概要

従業員数……118名
車両台数……45台

▶全従業員が毎年手書きで記入する「飲酒運転撲滅の誓い」宣言書（※一部）

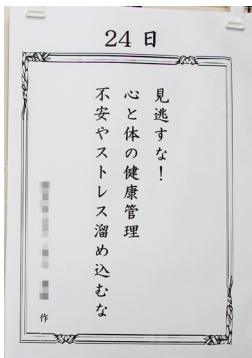


▶JAFによる事故惹起者への安全講習で再発防止を図っている



▶先輩社員による同乗指導

▶従業員が考えた「安全・衛生スローガン」を唱和し、安全意識を高めている



▶第41回福岡県安全運転管理協議会交通事故防止コンクールにおいて優秀事業所の賞状を受け取る松山部長



厳しく対応しています。そうしたことから飲酒運転の撲滅を図るため、12月に全従業員による「飲酒運転撲滅の誓い」の宣言書を作成し、社内に掲示しています。

また、朝礼では季節に応じた交通安全テーマを読み上げたり、独自に作成した日めくりカレンダー「安全・衛生スローガン」を唱和し、従業員の安全意識を高めています。「安全・衛生スローガン」は、毎年、関連会社を含む全従業員から募集しており、300点以上の応募があります。多数の応募作品の中から優秀作品2点、入選作29点を選考し、独自の日めくりカレンダーを作成しています。入選した作品は、7月の安全大会で発表し、受賞者を表彰しています。自分たちで考えた「安全・衛生スローガン」は、従業員の安全意識の高揚とスローガン達成に向けた業務活動に繋がっています。

過去の教訓を活かし 安全対策の基本を積み重ねる

すべての社有車には、ドライブレコーダーを装着しています。それらの映像は、後日、安全衛生委員会を取り上げ、交通事故防止に活用しています。当社では、駐車場でのバック時の接触事故が少なくありません。

車両事故を起こした運転者は、時間

の経過とともに反省の気持ち が薄れ、再び事故を繰り返す傾向があります。

そこで、事故惹起者には自動車学校で事故防止安全運転実技講習などに参加させたり、JAF講師を当社に招いて安全講話や駐車場を活用した実車による学習で再発防止に努めています。

ここまで安全対策に関して徹底的に取り組むのは、過去に脚立を道路に落させた事故を教訓としているからです。幸いにも二次事故を引き起こすことはありませんでしたが、一歩間違えば重大事故に発展していた可能性が高かった事例です。この一件で徹底した再発防止策が策定され、二度と同じ過ちを繰り返さないように脚立を事務所内に展示して教訓としています。

こうした基本的な安全対策の積み重ねが交通事故防止コンクールにおいて優秀事業所の受賞につながったのだと考えています。

「安全はすべてに優先する」とは

当社の事業は、ミスが許されない作業が求められます。それは、従業員全員に高い安全意識が求められているということです。「安全はすべてに優先する」と言われますが、作業であつても運転であつても、常にゆとりを持ち、危険を予測しての安全確認を行うことがとても大切だと指導しています。